

「第2回やってみよう！遊ぼう！北区雪合戦大会」試合進行概要 (競技ルール)

● コート

- ・国際雪合戦とほぼ同じ規格とする。(エンドライン 10m サイドライン 36m)
(センターシェルター、第1・第2シェルター、シャトーも同規格)
- 【北区特別ルール】バックラインなし(フォワード、バックスの規程なし)。

● 雪球・用具等

- ・雪球:2セット分 120球(1セット 60球)を雪球製造器で作製する。(原則、チームで自主作製する。)
- ・ヘルメット:競技中は着用すること。(大会主催者から貸し出しあり。)
- ・ゼッケン:1~7番を着用すること。(大会主催者から貸し出しあり。)
- ・靴:金属製のスパイクのついた靴は使用不可とする。

● 試合

- ・1セット 2分。2セットマッチで行なう。(1セット目終了時にコートチェンジ)
- ・セット間に2分のハーフタイムがあり、作戦会議やメンバーチェンジを行うことができる。
- ・プレイヤー7名、交代要員を含め 10名とする。(プレイヤーの人数が7名未満でも、試合は成立)
- ・雪球に当たった選手はアウトとし、コート外へ退場し、ゼッケンを脱いで指定された場所へ行く。
【北区特別ルール】原則、フェアプレイ精神によるセルフジャッジ(最終判定は審判に従う)。
- ・シャトー、シェルターを含め、ワンバウンドした雪球に当たった場合は、セーフとする。
- ・先にアウトとなった選手が投げた雪球に当たった選手は、セーフとする。
- ・サイドラインまたはエンドラインから体全体が出た場合はアウトとし、コート外へ退場。
- ・フラッグに向かって選手の走路を妨害した場合はアウト。(故意または不可抗力を問わない。)
- ・雪球の受渡しに制約は設けない。(公式ルール上のアウトを適用しない。)
- 【北区特別ルール】お手玉行為、渡し方(味方が投げた雪球のキャッチ)、個数等の制約なし。
- ・故意に雪球を割ったり、雪を加えて作り直したりすることはできない。
- ・選手交代は、セット間のみ可。(退場選手の補充は、そのセット内では不可。)

● 勝敗

【試合】2セットを取ったチームの勝利。

- ・セットカウント 1対1の場合は、各セットの取得ポイントの合計が多いチームの勝利。
- ・両チームが上記のいずれも同じ場合は、ビクトリースロー(サドンデス)により決定。
(ジャンケンで勝ったチームが先攻後攻を選択。両チームの選手が投球順に並び、その順に投球する。)

【セット】タイムアップ時に、コート内に残った選手が多いチームの勝利。

- ・セットの取得ポイントは、両チームともにコート内に「残った人数×1点」を与える。
- ・ただし、次の場合は、セットの勝利チームに「10点」を与える。
 - ①相手チームのフラッグを抜いた場合。
 - ②相手チームを全員アウトにした場合。
 - ③相手チームの反則負けの場合(センターラインを超えて4人以上の選手が相手コートに入る)。

● 試合の流れ

- ・コート入場後、雪球の点検。競技者名簿を主審に提出。
- ・センターシェルターを挟んで、そのセットの両チーム出場選手が整列し、挨拶。
- ・試合開始は、エンドライン上に出場選手全員が片足を置き、主審の合図でスタート。
各選手が持つ雪球の個数制限なし(服に入れる行為は反則アウト)。フライングがあればやり直し。
- ・主審から試合中断の合図があった時は、両チームのアウト以外の選手はエンドラインに並ぶ。(持っている雪球はそのまま。タイム停止。)主審の合図で、試合再開する。
- ・セット終了は、主審の合図による(【北区特別ルール】セット終了10秒前アナウンスなし。)。両チームのアウト以外の選手はセンターシェルターを挟んで整列し、審判の確認を受ける。
- ・試合終了時は、センターシェルターを挟んで両チーム全選手が整列し、主審から結果の報告を受け、挨拶をする。